

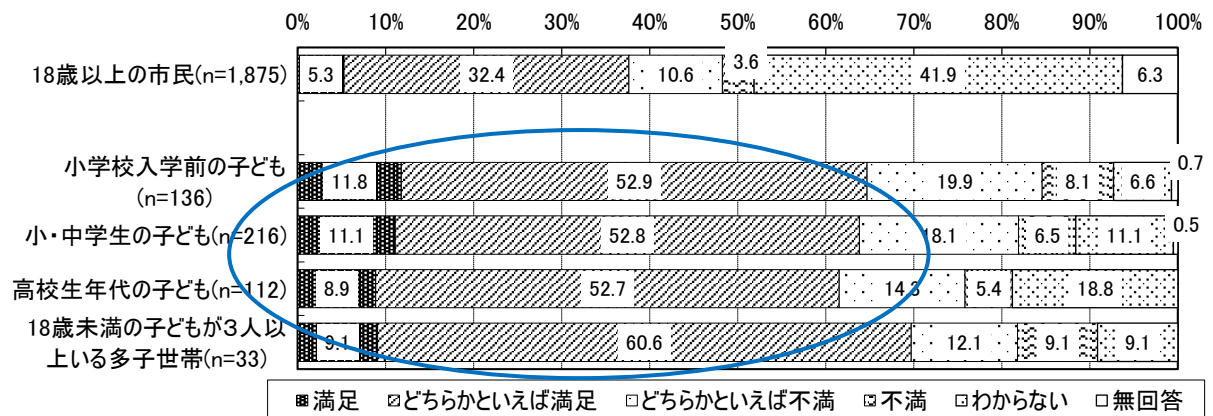
■アンケート分析結果からみる寝屋川市の現状と課題

① 地域の環境への評価

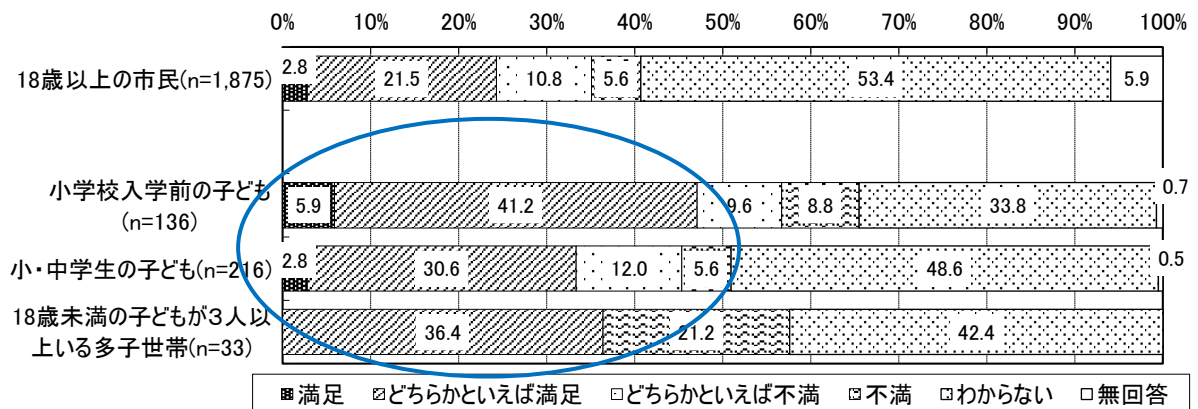
- ・子育て世代については、情報提供、相談窓口なども含めて満足感が高い。

■問7 現在お住まいの地域での暮らしに関する環境についてどのように感じていますか。

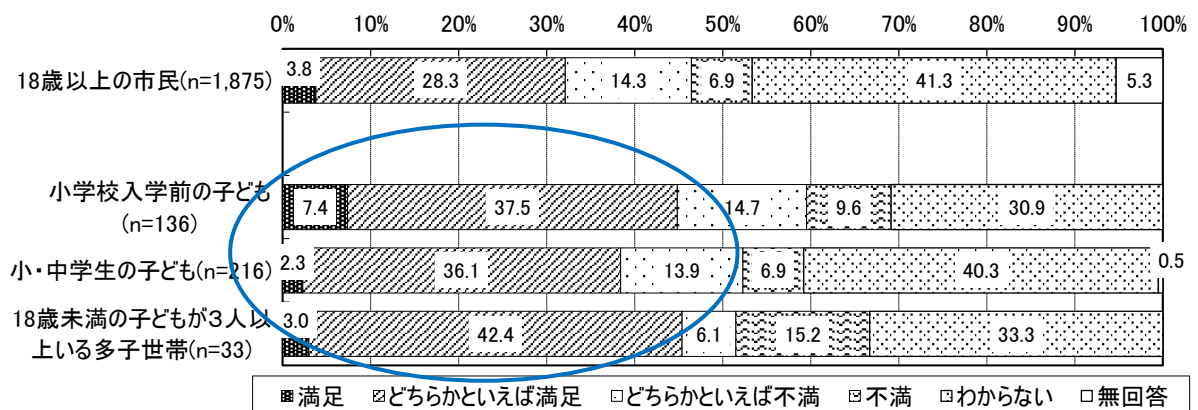
③子育てしやすい環境



④相談窓口とネットワークの充実



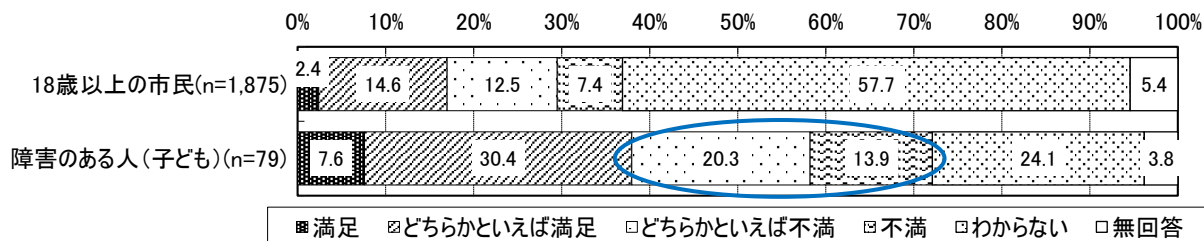
⑤保健や福祉に関する情報の得やすさ



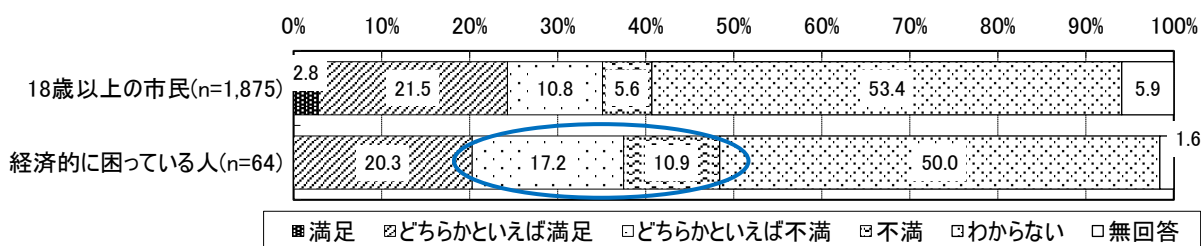
- ・障害のある人（子ども）や経済的に困っている人と同居している人は、関連する内容に対して不満に感じている人も少なくない。

■問7 現在お住まいの地域での暮らしに関する環境についてどのように感じていますか。

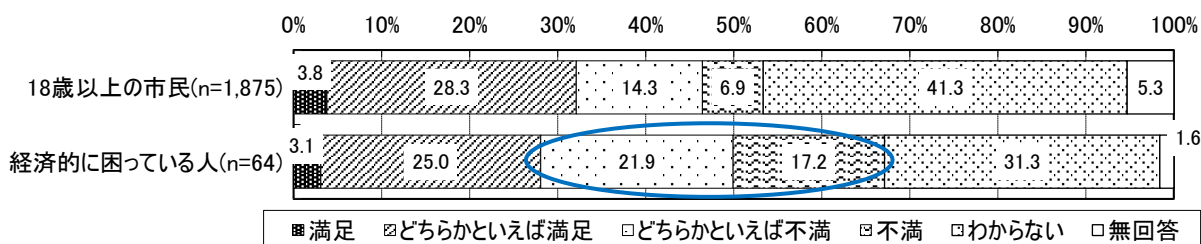
②障害者（児）が暮らしやすい環境



④相談窓口とネットワークの充実



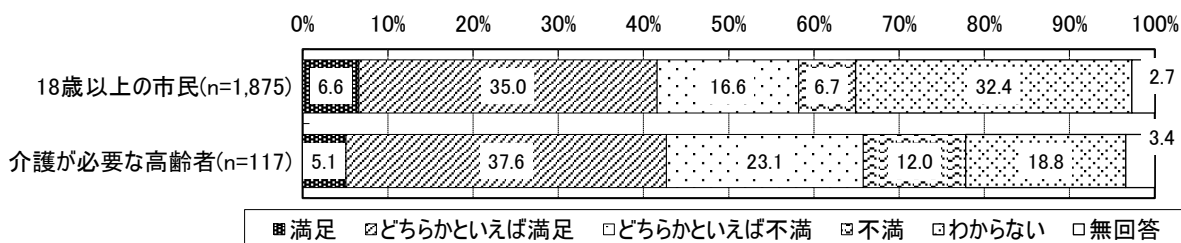
⑤保健や福祉に関する情報の得やすさ



- ・介護が必要な高齢者がいる世帯については、満足と不満に評価が分かれている。

■問7 現在お住まいの地域での暮らしに関する環境についてどのように感じていますか。

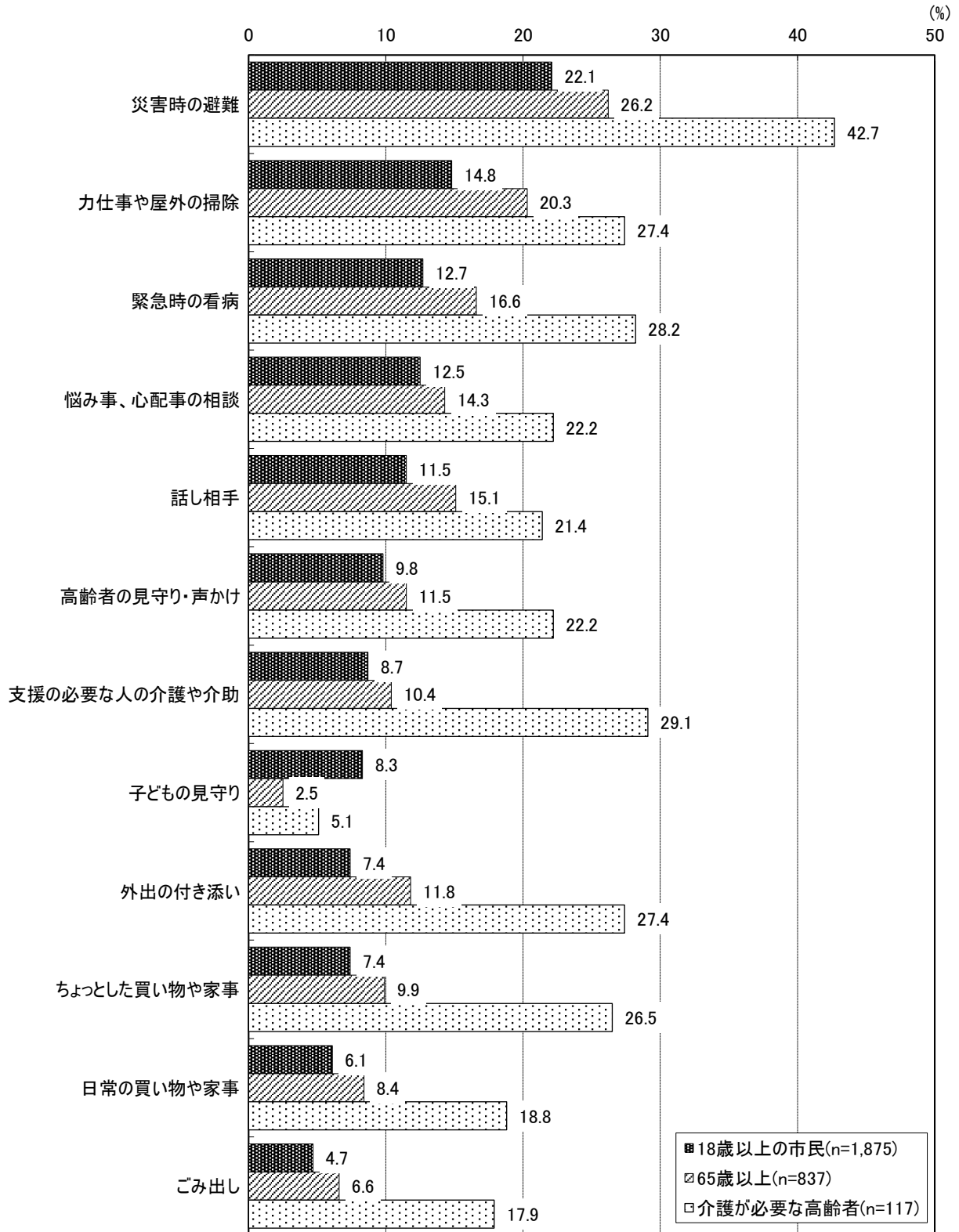
①高齢者が暮らしやすい環境



② 地域における助け合い、支え合い

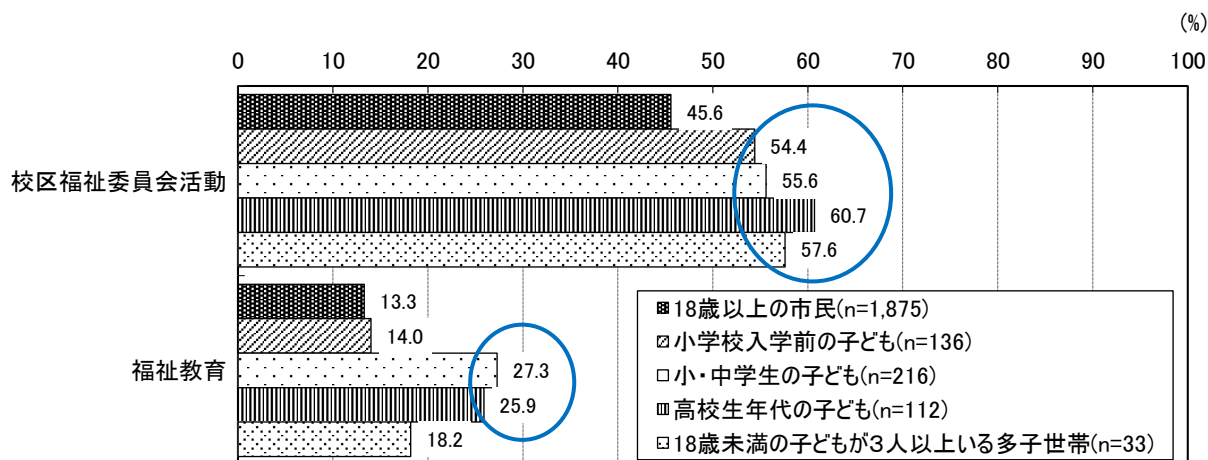
・介護が必要な高齢者がいる世帯では、総じて支援ニーズが高くなっている。

■問9 近所づきあいの中で「手助けをしてほしい」と思うこと



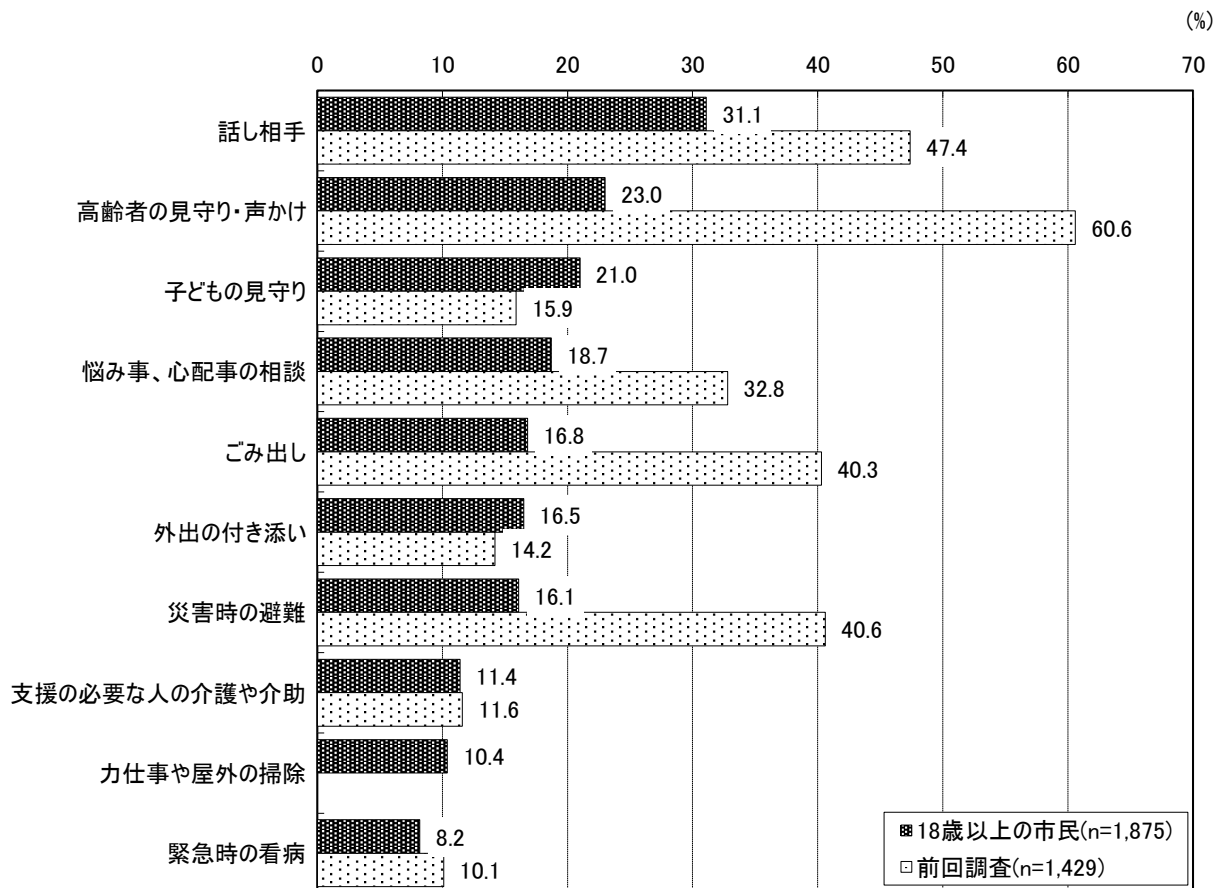
- ・校区福祉委員会は、若い人にもよく知られている（子育てサロンの関係か）。

■問26 社会福祉協議会が行っている事業や活動で知っているもの



- ・若い世代を中心に話し相手、相談、見守り等ができそうと答える人が多くみられるが、前回調査と比べると大きく割合が低下している。話し相手、相談、見守り等ができそうと答えた人たちをいかに参加へ導いて、支援ニーズのある人とマッチングさせていくかが課題となる。

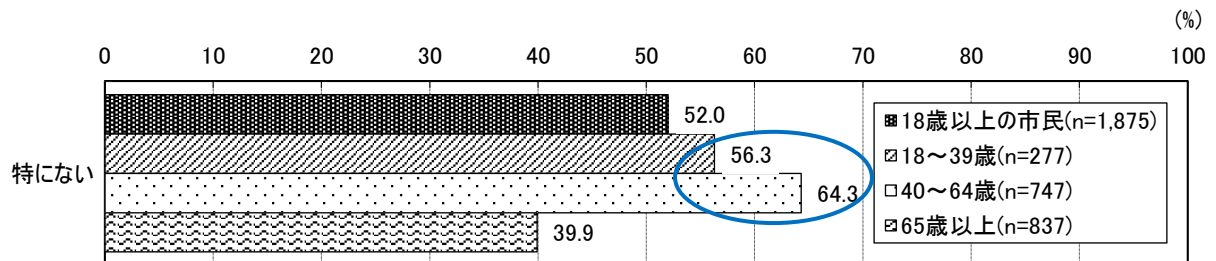
■問9 近所づきあいの中で「できそうなこと」「やってみたいこと」



③ 地域の居場所、つながり

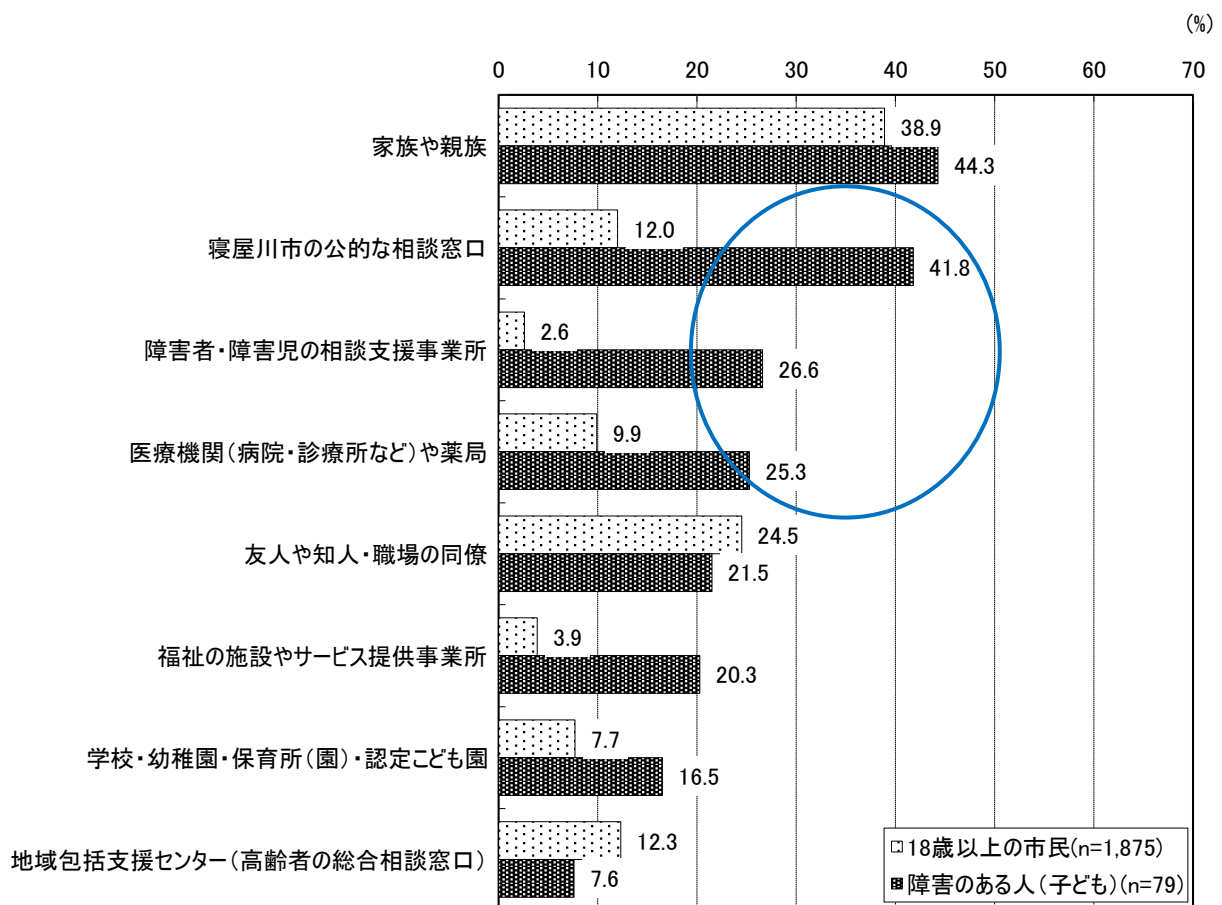
・若年層や中年層で地域に居場所がないと答える人が多い。

■問6 ご自宅、学校、職場以外に、あなたには安心できる、人とのつながりを実感できる場所や活動（居場所）がありますか。



・障害のある人（子ども）やその家族は、公的な機関や団体・事業者とのつながりが強いことがうかがえる。

■問16 これまで福祉、介護、子育てなどで困ったときに相談したことがある人（ところ）がありますか。

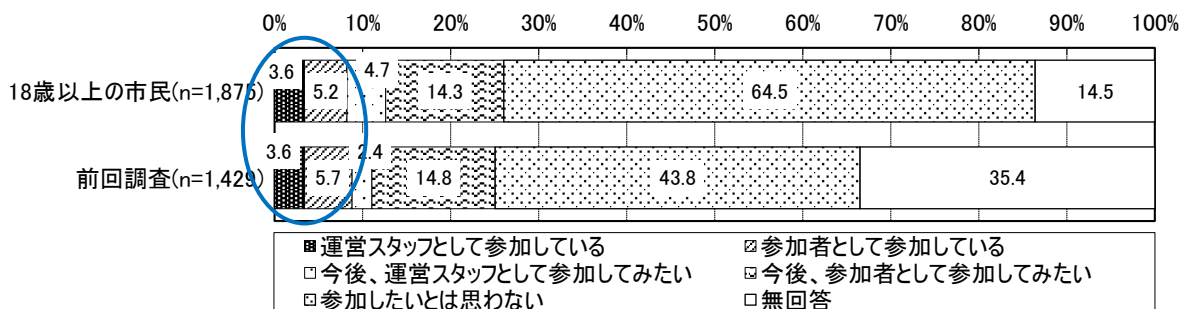


④ 福祉活動への参加

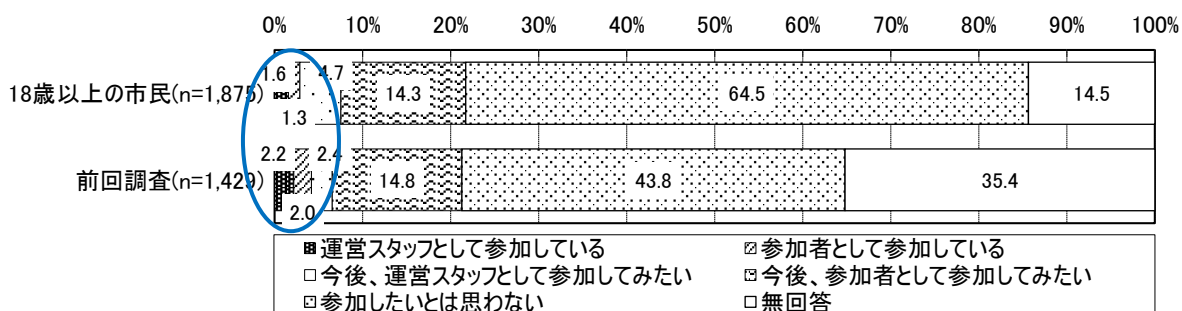
・現在は福祉活動に関わる市民が極めて少なく、前回調査から状況に変化が見られない。

■問23 福祉に関する次のような活動に参加していますか。

①自治会、地域協働協議会、校区福祉委員会（サロン）などの身近な地域での福祉活動

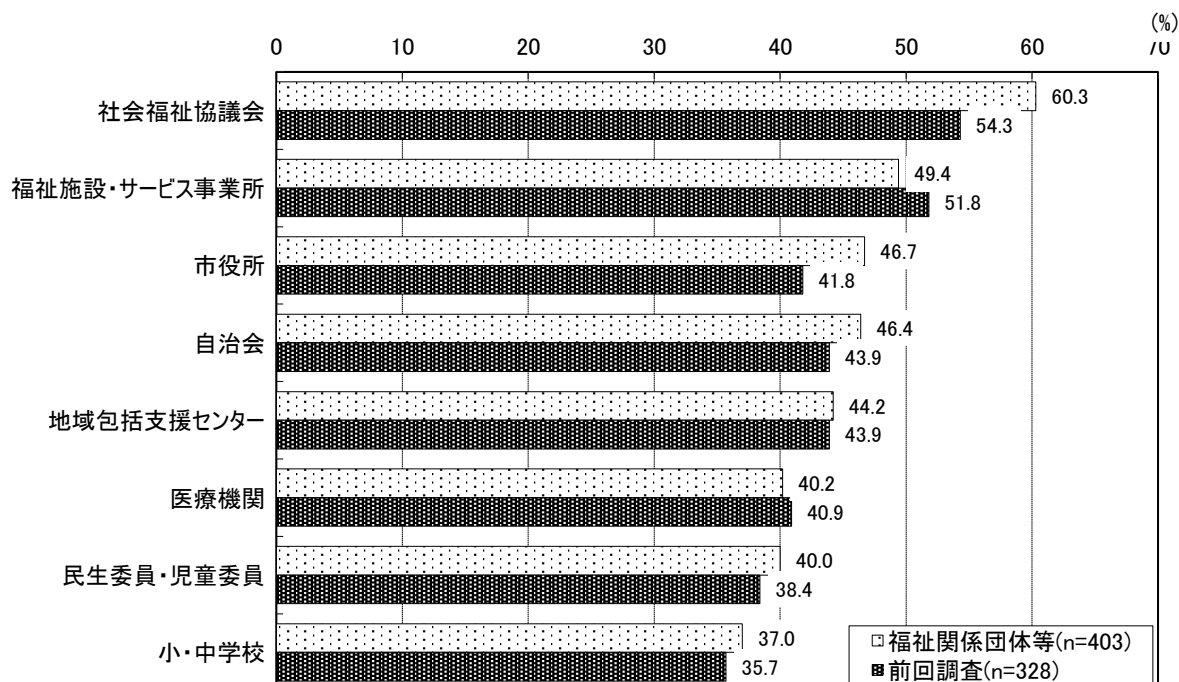


②ボランティア、NPOなどの団体での福祉活動



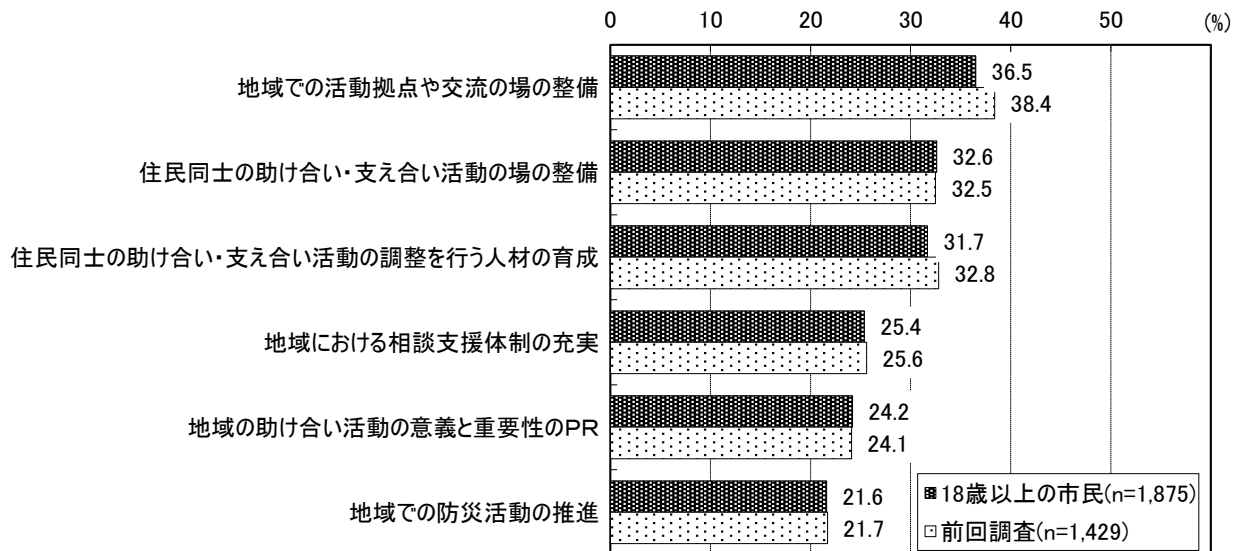
・団体・事業者は、地域の様々な団体・機関とつながりを持つところが多い。

■（福祉関係団体等）問5 現在、連携・協力関係にある団体、機関等がありますか。

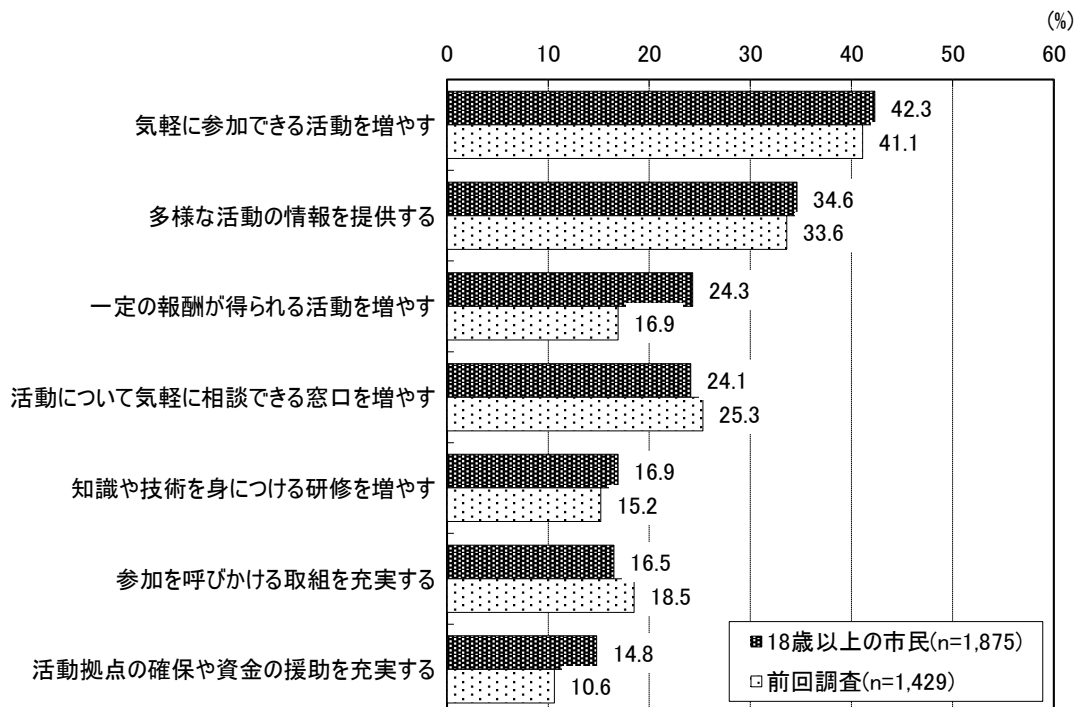


- ・きっかけがあれば参加するという感じの市民が多く、活動を活発にするために拠点づくりや交流の場の充実が必要と考えている人が多くみられる。また、若い世代では活動に見合う報酬が得られることを条件としてとらえている人も多い。

■問14 身近な地域における住民同士の助け合い、支え合いを推進していくためには、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。



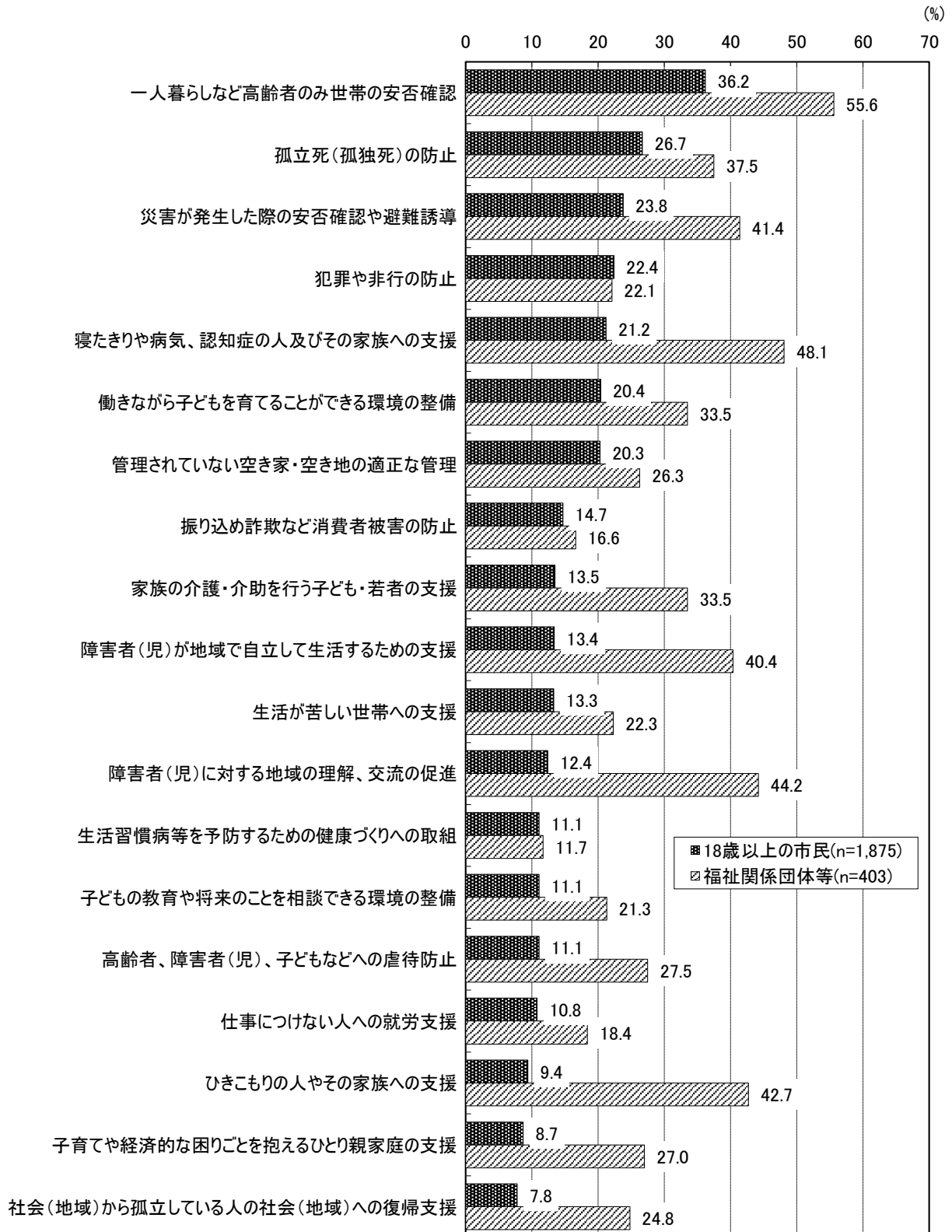
■問24 市民が福祉に関する活動にもっと参加するには、どのような取組が“特に効果的”だと思いますか。



⑤ 地域の福祉課題

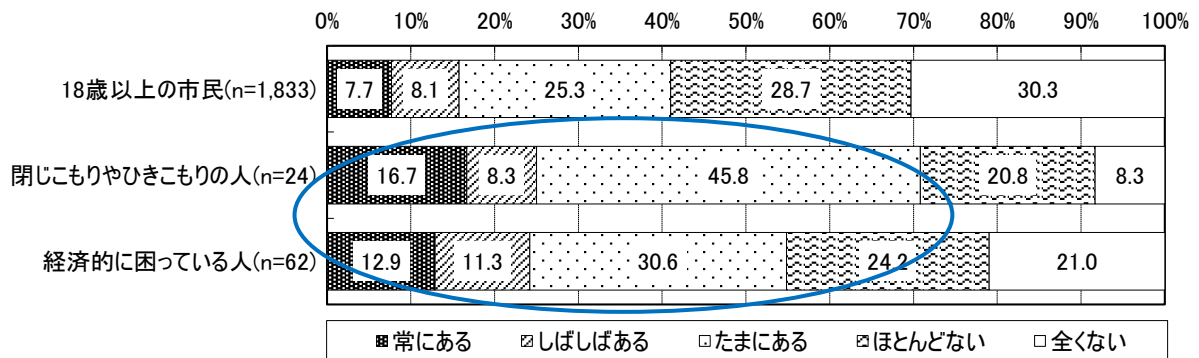
- ・高齢者等の孤立・孤独対策、認知症対策、防災・防犯対策などを挙げる人が市民・団体とも多い。

■問12 お住まいの地域で日頃気になっていたり、課題と感じていることはありますか。

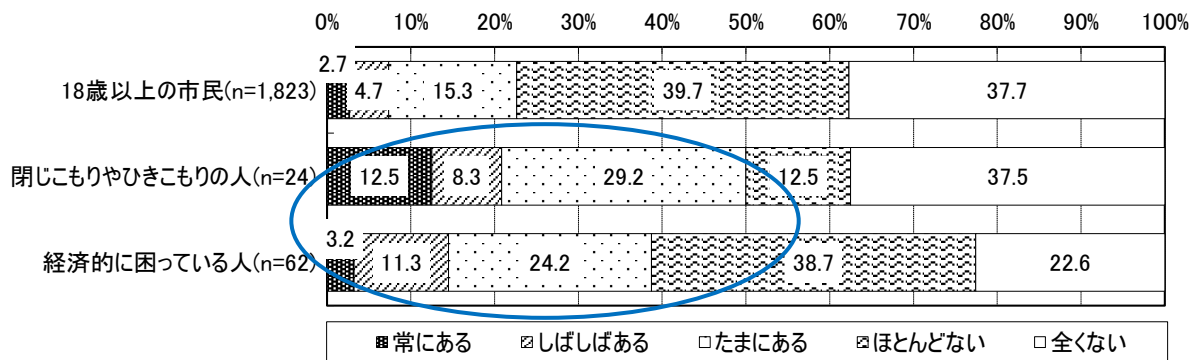


・「閉じこもり・ひきこもりの人」や「経済的に困っている人」と同居している人（当事者本人も含む）は孤独・孤立感が高い。

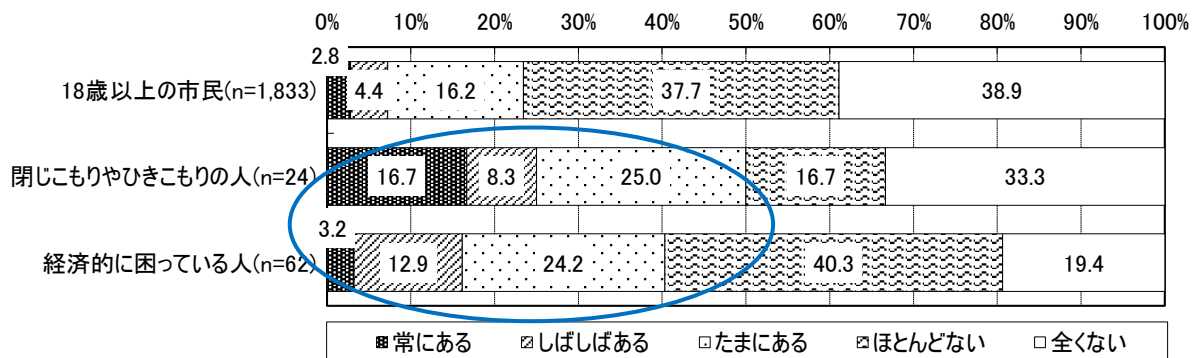
■問13① 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある



■問13② 自分は取り残されていると感じることがある



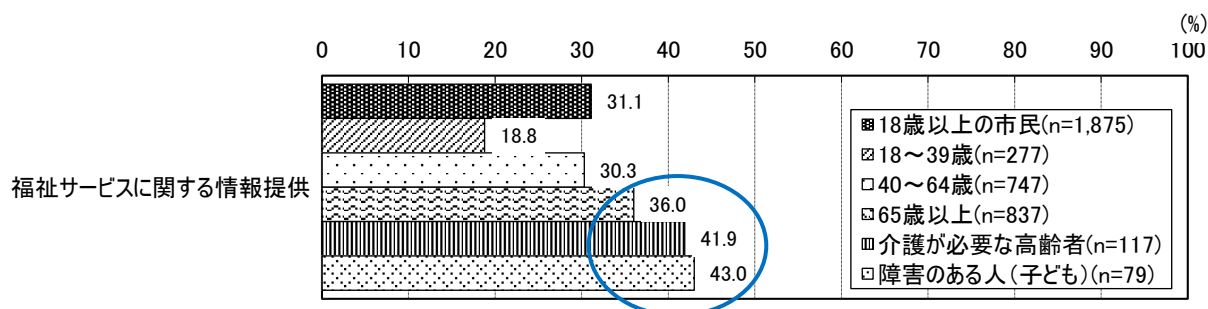
■問13③ 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある



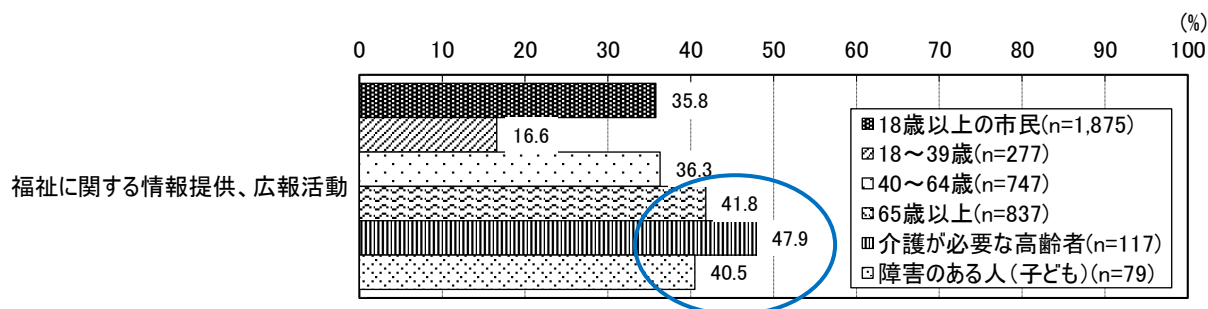
⑥ 情報提供や相談体制

- ・高齢者や介護が必要な高齢者のいる世帯、障害のある人（子ども）と同居している人はサービス関連情報等の提供をより求める人が多い。

■問29 今後、寝屋川市としてどのような施策に力を入れるべきだと思いますか。

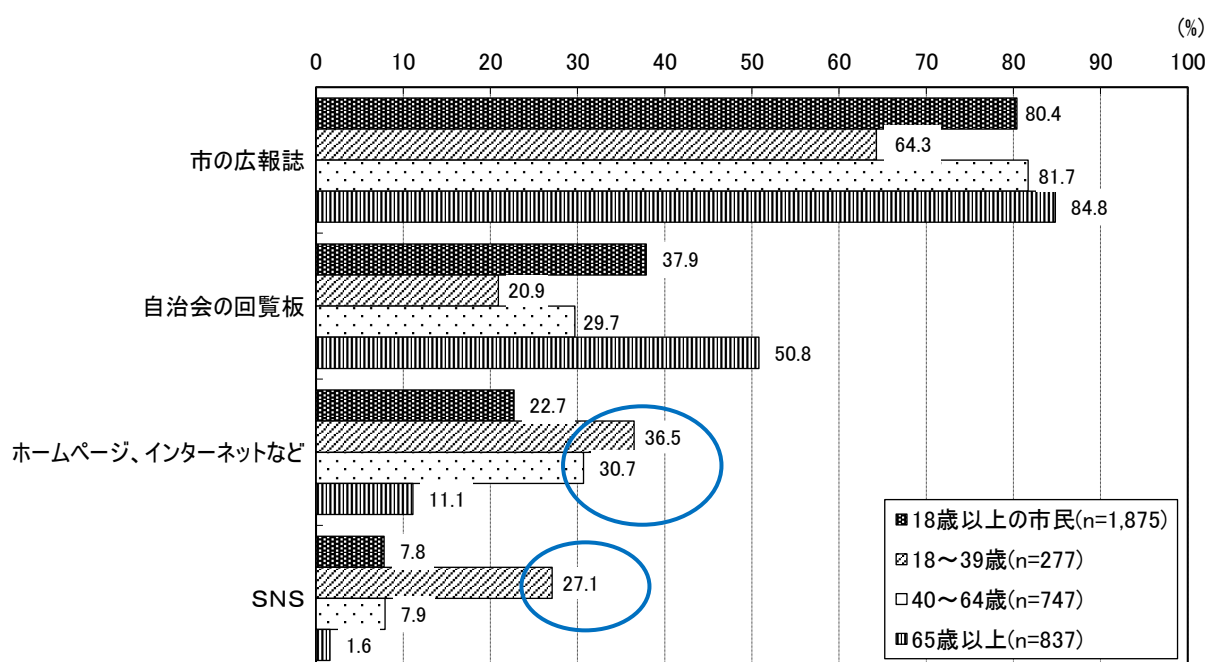


■問27 社会福祉協議会の活動で、今後充実してほしいものはどれですか。



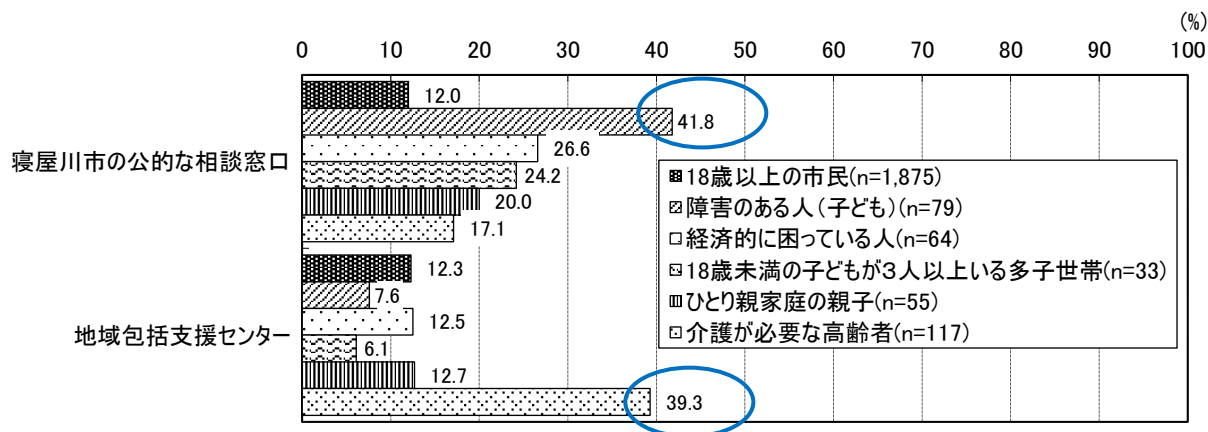
- ・若い人を中心にインターネット、SNSを活用した情報発信が求められている。

■問15 市の福祉に関する情報を得る手段はどれですか。

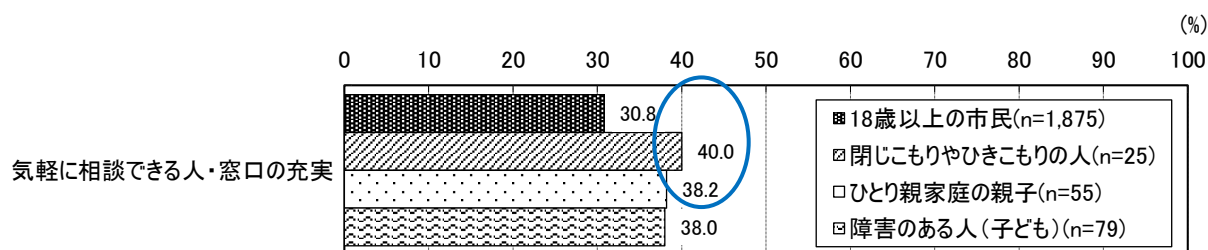


- ・障害のある人（子ども）や経済的に困っている人、閉じこもり・ひきこもりの人、ひとり親家庭などで相談ニーズが高い。
- ・介護が必要な高齢者のいる世帯では地域包括支援センターが非常に頼りにされている。

■問16 これまで福祉、介護、子育てなどで困ったときに相談したことがある人（ところ）がありますか。

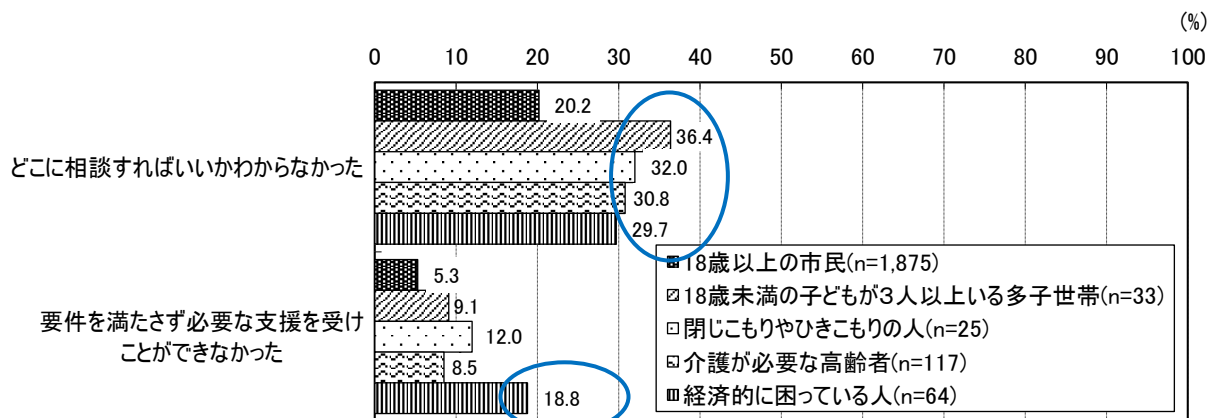


■問29 今後、寝屋川市としてどのような施策に力を入れるべきだと思いますか。



- ・行政へ相談する際の困りごととして、介護が必要な高齢者のいる世帯、多子世帯、不登校や閉じこもり・ひきこもり、経済的に困っている人と同居している人は「どこに行けばいいかわからない」「要件を満たさない」と答える人が比較的多い。気軽に身近な場所で相談できること、専門的な相談体制を整えることの両面が求められている。

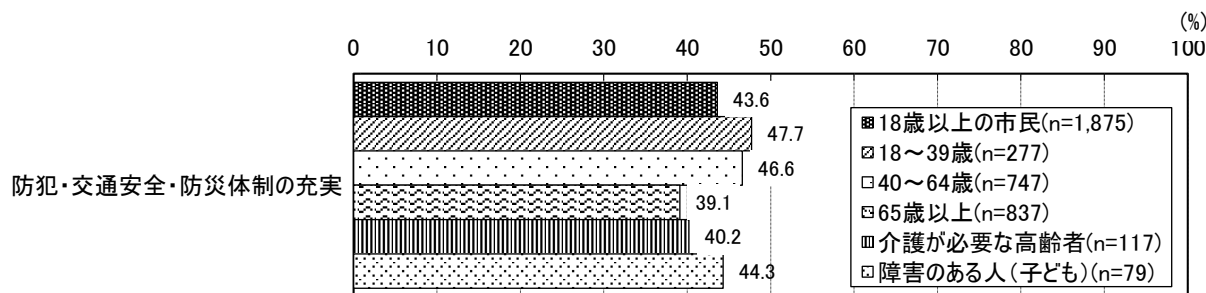
■問17 あなたやご家族が抱える悩みについて、市に相談するときに困ったことがありますか。



⑦ 安全・安心と地域福祉

・若い人を中心に防災への関心が高い。犯罪・非行防止への関心については世代を通じて高くみられる。地域福祉と防災・防犯をあわせて取り組むことでより高い関心と呼ぶ可能性がある。

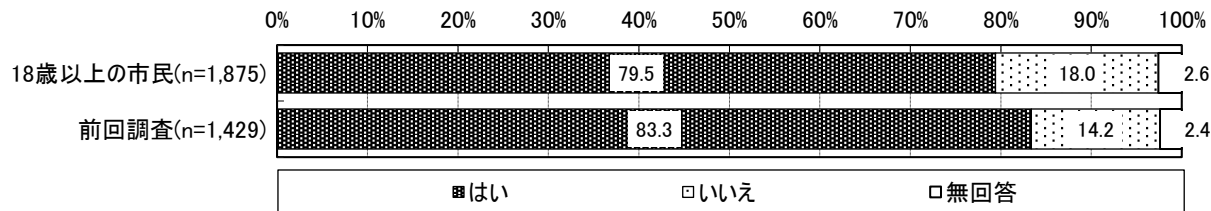
■問29 今後、寝屋川市としてどのような施策に力を入れるべきだと思いますか。



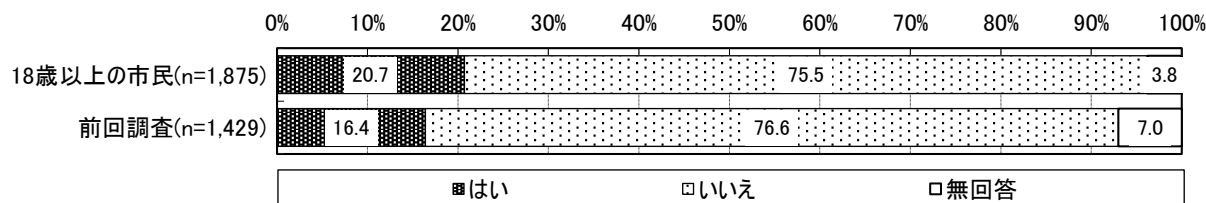
・災害時に自力で避難ができる人が前回調査より減る一方で、災害時に安否確認ができるという人も減っており、地域の防災力の低下が懸念される。

■問10 あなたの防災に対する日頃からの取組や、災害などの緊急時の対応について、お聞かせください。

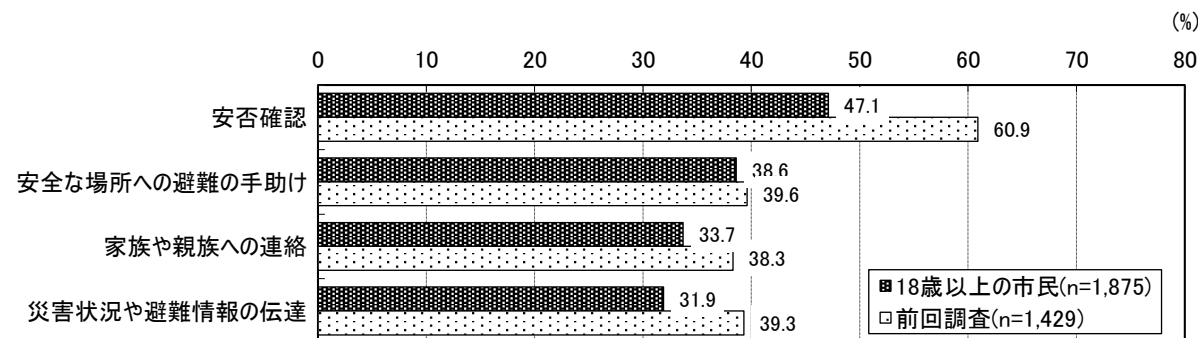
①災害時の避難場所について知っていますか



②災害などの緊急時に、避難所への誘導などの手助けが必要ですか



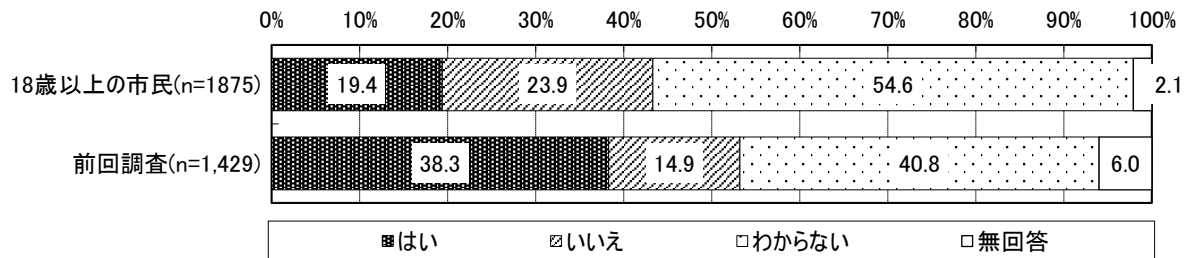
■問11 大震災などの災害が起こった時に、あなたはご家族以外で支援が必要な人のためにどのような助け合いや協力ができますか。



⑧ その他

- ・成年後見制度の利用希望は少なく、今後、独居世帯が増えたり、孤立・孤独が進む可能性がある中でどう利用を促進していくかが課題である。

■問19 あなたご自身が認知症などで判断が十分にできなくなったとき、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。



- ・団体活動の課題は、スタッフ、リーダーなど人的なものが多くを占めている。地域の福祉活動も含めて担い手をいかに確保・育成していくかが課題である。

■（福祉関係団体等）問9 団体活動を行う上で、困っていること・課題は何ですか。

